

# 日本風景街道大学ふじのくに静岡校

## 【技】拡大・充実の智恵と技術

(中間支援、企業連携、日本風景街道ブランドの確立)

座長: 原文宏(シーニックバイウェイ支援センター)

- ・川瀧弘之氏(観光庁観光地域振興課)  
「これからの日本観光と日本風景街道」
- ・真鍋憲太郎(シーニックバイウェイ北海道トカプチ雄大空間)  
「ガーデン街道とシーニックバイウェイの連携」
- ・佐藤 雄一(CONCEPT)  
「連携の結び役、現場からの提案」
- ・吉武 哲信(九州工業大学教授)  
「日本風景街道大学の試み」

# まとめ（1）

## ・日本風景街道の観光事業との連携

日本風景街道の認知は低い。2020年に向けて、日本風景街道の英語標記など、国際観光面の対応が必要ではないか。

→ 各、日本風景街道のルートは、このような状況で、海外旅行客を受け入れ可能な状況なのか。外国人観光客を対象とした案内標識等の多言語化など

## ・中間支援活動

このような活動には、公益的な部分が多く、補助金や助成金だけで活動を継続させることは難しい。だれば、申請書を書き続けるのか……。

→ やはり、現状では、継続させるには事業を持つ必要があるのではないか。

## まとめ（２）

### ・「互産互生（消）」の関係づくり

→ 例えば、サイクルツーリズムなどで、静岡と北海道は、季節感や自然条件が全く気候風土が違う、このことを活用して日本風景街道の相互にいきかう。例えば、

→ ガイドサイクリング、スキー、ゴルフなどで、季節間で全くことなることを選んで、相互にツーリズムを行う。

冬：	静岡（スキー、雪祭り等）	→北海道
	北海道（自転車、ゴルフ等）	→静岡
夏：	静岡（自転車、ゴルフ等）	→北海道
	北海道（？？？）	→静岡

## まとめ（3）

### ・民間企業と日本風景街道が連携するポイント

- 日本風景街道と民間事業の、相互に受け入れられるテーマを探して、その部分で連携を図ることがよい。
- 日本風景街道のカバーする多様な活動の中から、単一テーマに絞り込んで、連携、事業家を図ることが良いのではないか。  
例えば、ガーデン、ウォーキング、サイクルツーリズム、物販など
- 個人的な意見であるが、様々な企業と連携するなかで、企業も変わる、地域活動団体も変わる中で、新しい事業が創造される気がする。とにかく、連携する経験、機会を沢山作りことが重要ではないか。